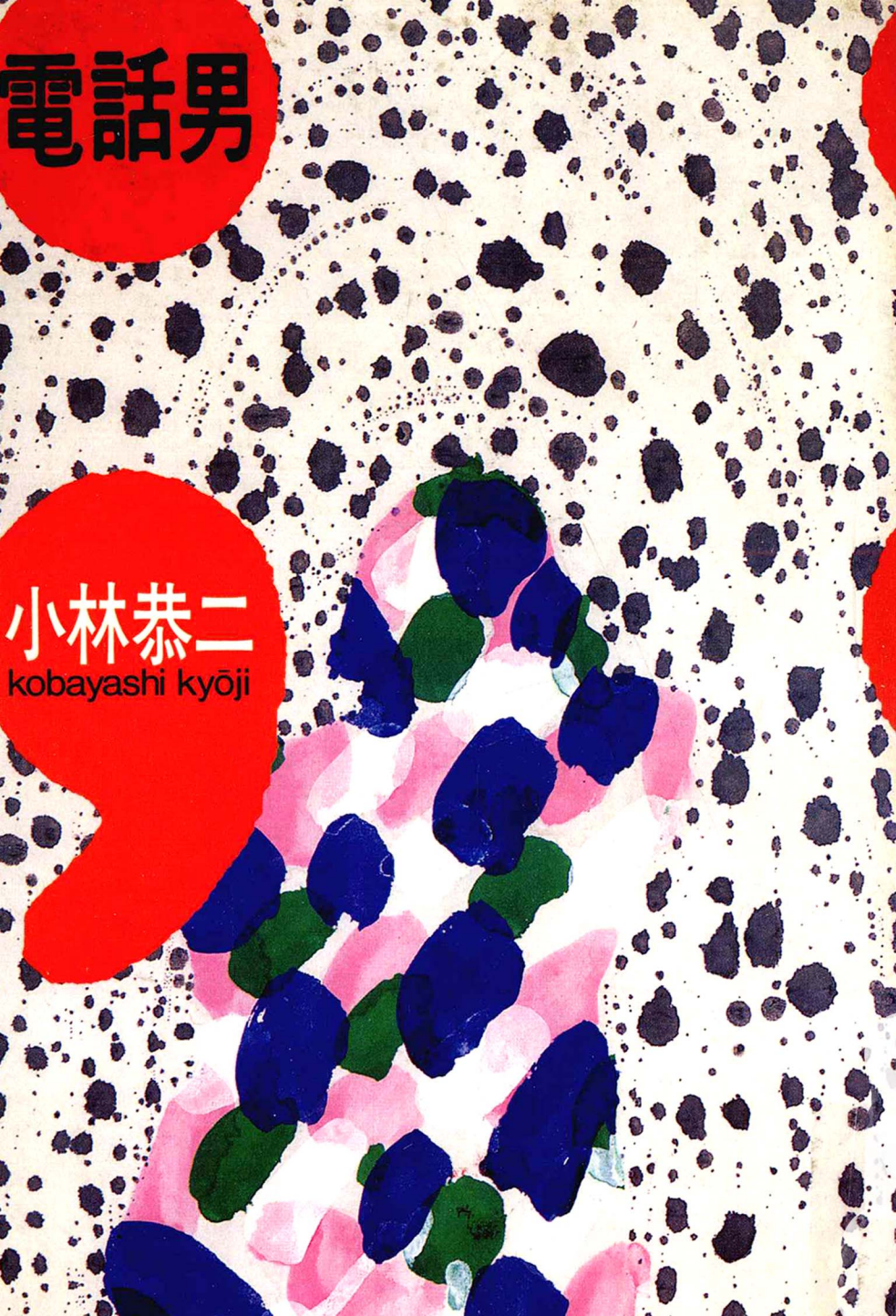
電話男

小林恭二
kobayashi kyōji



電話男

小林恭二
kobayashi kyōji

福武書店

小林恭二（こばやし・きょうじ）
一九五七年、兵庫県西宮市に生まれる。東京大学文学部美学芸術学専修課程修了。八四年、「電話男」で第三回「海燕」新人文学賞受賞。大学在学中は「東大学生俳句会」の一員として活躍し、現在も俳句の形式美をとり入れた小説作品に取り組んでいる。

電話男

一九八五年五月一〇日　第一刷印刷
一九八五年五月一五日　第一刷発行
定価一二〇〇円

著者　小林恭二
発行者　福武哲彦
発行所　株式会社　福武書店
東京都千代田区九段南二-二-二八
〒102　電話（03）二三〇-二一三一
振替口座（東京）六-一〇五〇九七

本文印刷　平版印刷　大日本印刷
製本所　加藤製本

（落・乱丁本はお取替え致します）

© K. Kobayashi 1985

ISBN 4-8288-2149-X C0093
NDC 913 194 224 p

目次

電話男　5
迷宮生活　115

装丁　菊地信義
装画　深沢軍治

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

電話男

電話男

1

今晩は。
話に入る前に、ちょっとカーテンを開けていいですか。
桜の散るのが見たいもので。
きれいだな。
ついでに窓も少し開けさせてもらいますね。
おや、満月だ。
わたくしはこの月が好きなんです。とても好きなんです。これから欠けてゆくばかりの満月、というのがね。
でも、

花吹雪に満月なんて。ちょっとやりすぎですかね。そうでもないですかね。

さて、

本当のこと言いますと、

わたくしは、あなたがたのように電話男のことを聞きたがる人がこの世に居るなどとは思ったこともありませんでした。

ですから、

正直に言いまして、さあ、話してみろ、と言われても、何から話し始めたらいいか、今ちょっと見当がつかない状態なのです。

御存知の通り、

わたくしたち電話男は、もともと人の話を聞く一方の存在でして、すすんで、人に話をするような習慣は持ち合わせておりません。

おそらくは、

わたくしの話はつまらないものになると思います。つまらない話を聞くのが好きでない方は、

どうぞ、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

耳をふさいでいてください。
わたくしはそんなに大きな声でしゃべりませんから。軽く耳をふさいでくれさえすれば、つまらない話を聞かないですむことは請け合います。
しかし、
それでも、
おして、
聞いてくださる方は、つまらない話が好きな人と判断させてもらって、後で、
「やっぱりつまらなかった」だの、
「時間のムダだった」だのとおっしゃられても一切の責任は負いかねます。
御了承ください。
では、そろそろ始めましょうか。
窓から気持のいい風が入ってきます。とても気持がいいです。
……、うーん。
この前の水曜日は、
あ、今からでも間にあいますよ。わたくしは気にしたりしませんから。耳をふさぎたい方は、どうぞ、今のうちに。

2

この前の水曜日は、
なかなかハードな一日でしたね。長電話の常連から相ついで七本ほども電話がかかっちゃったんですから。
そうですね、
かれこれ十二時間は受話器に耳をあてていたんじゃないですか。いくらわたくしが電話男だと言っても、これはなかなかの重労働ですよ。
実際、
あまりに長時間受話器を耳にあてているので、耳が赤くはれあがったり、ボクサーの耳みたいに変形することだってあるんです。
耳だけじゃありません。電話男は概して聞き役なんですが、やっぱり適当にあいづちや質問なんかもしますから、喉もやられます。風邪なんかひくとひどいです。本当にひどいです。喉を酷使する上に、いつも部屋の中のよどんだ空気を吸ってますから。治りが遅いんです。
それに、運動不足。
今、わたくしも大変悩まされておりまして。ひどいんですよ。体重の増加が。昔はこれ

でも五十キロ台のスリムな体つきだったのにね。（想像できますか？）今じゃもう七十キロ台を守るだけで精一杯ってところ。足や腰が年中痛くってね。ひどいんです。本当に。

総じて、

わたくしたち電話男は、肥満に悩まされていると言えましょう。なにしろ、一時たりとも電話から離れられませんから。運動不足には絶対なりますしね。食事のかたよりもあるんですよ。

わたくしたちが、食事をとるのは普通、電話と電話の合い間なんですけど、電話がたてこんでいる時なんかは十時間くらい食事がとれないことがあります。本当に。ザラですよ。それで、電話男は自分から電話を切ることは禁じられていますから、どんなに空腹でもガマンして電話の相手をしていなくちゃいけない。辛いですよ。これは。

そのため、わたくしなんか食べられる時にまとめて食べる癖をつけているんです。これがまた肥満に悪い。しかも、いつでも食べられるものと言いますと、やはり種類が限られる。冷凍物とかインスタント物とかいうふうにね。腐らないものですよね。栄養のバランスは、当然、最悪。

で、

一年も電話男をしているとぶくぶくに脹れあがっちゃう。

一種の職業病ですね。

時々、自分でも思いますね。なんていう生活をしてるんだろうって。やめられないんです。やっぱり好きなんですかね。よくわかりませんけどね。

とにかく、やめられないんです。

えーと、何の話でしたっけ。

ま、なんの話でもいいか。

ちょっと電話男の宣伝をしましょうか。

わたくしたち電話男のもとに電話をすることは、世上いわれてるほどむずかしいことではありません。

ほら、よく言うでしょ。高価なプレミアムつきの会員権を買わなければいけないとか、電話男と個人的なつながりがなければ相手にして貰えないとか。

でも、実際にはそんなことは一切ないんです。

電話男の電話番号さえ入手すればいい。それだけです。

で、

電話をしたら、ちょっとした自己紹介をする。これでもう、あなたは電話男のお友達です。電話男は新しい友達も古い友達も差別しません。あなたは、辛いことや苦しいことを

一人胸にためておく必要はありません。すべては送話口のむこうにいる未知なる電話男に吐きだせばよろしい。

電話男はなんの報酬も求めませんし、逆にあなたに向ってグチを言ったりすることも決してないのです。

簡単でしょう。

まあ、

実際には、なんとなく性が合わない電話男もいたりするでしょうけど。そういったケースを除けば、あなたは電話男と自由に話をする権利を極めて簡単に得ることができるのです。

電話男は規約によって、どんな話にも耳をかたむけることになっています。だから、話がつまらないからといって途中で電話を切ったり、話の内容に非難がましいことを言ったりすることは決してありません。すべて厳しく決められているのです。

もっとも、

一般にはまだまだ電話男のそういう、言ってみれば、きちんとした面は伝わってないようですね。

「電話男ってヤクザがからんでるらしいぜ」とか、

「電話男って、話の内容を録音していて、後でそれをダシにして人を脅すことで食ってる

んだ」とかいうデマが今日に至ってもまかり通っていますしね。
無論、これは断言できます。
今までそんな事実は一件たりともおこったことはありません。
本当にありません。
もしあれば現在のように全国津々浦々まで電話男がゆきわたるという事態にはならなかったでしょう。だって、隙あらば電話男をほろぼしてしまおうと考えている集団が、昔から公安を筆頭にゴマンとあって、ちょっとしたスキャンダルでも致命傷にしてしまおうと狙っているのですから。
危険なのはむしろ電話男の方なのです。
新聞などでは滅多に報道されることはないですけど。電話男が通話の内容を他言しはしないかと不安になった通話人が、電話男を襲うなんていう事件が年に何度もおきているんです。実際に。
そんな代表的な事件に、四年前におきた「目黒事件」があります。

3

その男、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com